

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

学位申請者	高丸 理香 【ジェンダー学際研究専攻 平成24年度生】	要 旨
論文題目	女性の就業中断経験は再就職のための資源として活用されるか - 海外駐在員妻へのインタビューから -	<p>近年の日本では、女性の社会的な活躍が期待されてきている一方で、女性の就業中断は男性と比較すると圧倒的に多い。この女性の就業中断の理由の一つは配偶者の転勤である。この背景を基に、本申請者の研究では、海外駐在員妻が就業中断を選択した理由、渡航前、駐在時、帰国後の妻の就業行動と職業キャリア意識の変遷、海外帯同により獲得した能力・資源と再就職におけるこれらの活用プロセスを明らかにした。渡航直前まで正社員として働き帰国後に再就職をする予定でありかつ子どもがいない 30 歳前後の女性を対象としたインタビュー調査は 2011 年から 2016 年にかけて実施された。計 15 名の駐在員妻から得たデータは継続的比較法、M-GTA 法、テーマ的コード化の手法を用いて分析された。</p> <p>主な結果として、妻の就業中断理由は「仕事の区切りや変化への希求」「働き方の問い直し」などであった。また、海外滞在中に獲得した能力・資源として、自己洞察力、語学力、文化・慣習の違いに対する理解、不慣れな環境や不測の事態に対する処世術をあげている妻が多かった。これらは再就職時に活用できない場合もあったが、反対に、再就職後の職場適応のためにこれらの能力・資源を役立てている妻たちも多くいた。未だ女性の就業中断が多い我が国において、再就職後のキャリア形成の実現方法について駐在員妻の経験から理解できたこと、就業中断期の就労支援や職業訓練への示唆を得たことなどが本研究の意義である。</p> <p>本論文は以下の点で高い評価が得られた。第一に、インタビューデータの詳細かつ高度な分析から、女性の就業中断と再就職についての重要な概念を抽出し社会関係資本論の視点から理論的なモデルを構築できたこと、第二に、渡航前から帰国後までの妻の就業行動と帯同中の能力・資源の獲得を検証し、職業キャリア形成の実現方法の一つとしての就業中断という新しい視点と知見を提供できたこと、第三に、駐在員妻へのインタビューデータの分析から、女性の再就職やキャリア形成に関する広い意味での学術的、教育的、政策的、実践的なインプリケーションを導き出したことである。</p>
審査委員	(主査) 教授 石井クンツ昌子	
	教授 加賀美 常美代	
	教授 藤崎 宏子	
	教授 小玉 亮子	
	教授 高橋 桂子	